



第10回
返却値 (6.1 ~ 6.6)

AJ科 宮川 治

概要1

- 文字列 (String型) の連結
 - 演算子多重定義
 - + 演算子は2項演算子
 - + 演算子は項の和を計算する
 - + 演算子は文字列の場合は項を連結する
 - + 演算子は左項が文字列の場合、右項を文字列に変換して連結する。
 - 算術演算子の+のみ

概要2

- 返却値の個数は(0~1)
 - voidは0(無し)
 - 返却値の個数が1の場合、返却値には型がある。
 - return 返却値;

概要3

- クラス図からの導出
 - 返却値の型
 - 返却値の位置の違い
 - クラス図と振る舞い(メソッド)
 - 返却値の型(プログラム→クラス図)
 - 型 振る舞い → 振る舞い:型
- 返却値の初期値(デフォルト)
 - String型 → ""

概要4

- 引数無し(void)、返却値(String)あり
- 引数一つ(int)、返却値(String)あり

設問

- クラス図の3段目の表記からプログラムへの変換や確認
 - 返却値の型
 - 返却値の初期値
 - 引数の型や個数
- インデントミスの弁別